

宮崎県における重症熱性血小板減少症候群ウイルス(SFTSV)の 遺伝子型について

宮崎県衛生環境研究所

○三好 めぐみ、三浦 美穂、杉本 貴之

【はじめに】

宮崎県のSFTS患者は、2012年10月に1例目が発生して以降、現在まで（2019年7月22日時点）に68例発生し、都道府県別の症例数では依然として最も多い状況が続いている。SFTSの発症原因はSFTSVであり、これまでに日本型のJ1～J3及び中国型のC1～C5の遺伝子型が報告されている。

そこで、当県におけるSFTSVの遺伝子型、そして遺伝子型毎の地域特性や発症時期の特徴及び死亡率との関連性を確認することを目的に調査を行った。

【方法】

2013年から2019年8月中旬までにSFTS患者として届出のあった患者検体の内、54例のSFTSVを用い、S分節の一部（419bp）について、系統樹解析を行った。

これにより得られた遺伝子型毎に発生地、発生時期及び死亡率について調査を実施した。

【結果】

解析した54例の遺伝子型（国立感染症研究所ウイルス第一部にて解析された28例を含む）は、J1が41例、J3が13例であり、J2及び中国型は確認できなかった。

J1は大きく2つのグループに分けられ、1つのグループ（Aグループ12例）は県北部、もう1つのグループ（Bグループ26例）は県中部で発生していた。A、Bどちらのグループにも入らないのが4例あった。県中部については、更に類似する遺伝子型が特定の地域に複数箇所集まって発生（B-1～3グループ）していた。J3は全て県南部（Cグループ13例）で発生し、県北部及び県中部での発生はなかった。

発生時期については県北部が3～6月、県中部については、B-1～3のグループ間で発生時期が異なっていた。県南部については、年間を通して発生していた。死亡率については、J1の県北グループが33%、県中グループが31%、J3が31%であった。

【結論】

本県のSFTSVにはJ1とJ3の遺伝子型が存在し、発生地についてはJ3が県南部に偏在しておりJ1については県中部から県北部で発生し、類似する遺伝子型毎に発生地が異なっていることが確認された。発生時期については、県北部は春に偏っており、県中部はB-1～3のグループ間で冬に発生するグループと春に発生するグループがあるなど発生時期に差が見られた。県南部では年間を通じて発生しており発生時期に季節的特徴は確認されなかった。

これらの結果から県北部及び県中部については、重点的にマダニからの刺咬予防啓発を図る季節が存在すること、県南部については年間を通した予防啓発が必要なことが示唆された。遺伝子型と発生地域を含めた死亡率との明確な相関性は確認できなかった。

今後も未解析の検体及び新たに発生するSFTS患者の検体についての調査を継続し、SFTSVのベクターであるマダニ種の季節的消長との関連も含めてSFTS患者発生数の減少に有益な知見の集積を関係する機関と連携して進めていくこととする。

参考文献

- 1) 西條政幸, 他 IASR37 : 6-7 2016
- 2) 藤沢直輝, 他 第1回SFTS研究会・学術集会 : 30 2018